

2015年（平成27年）6月1日発行（毎月1回1日発行） 通巻507号 ISSN 0288-0377

# アジア時報

2015. 6



The Asian Affairs  
Research Council

特報 講演・討論会

戦後の日本外交を、中国を中心に検討する 川島 真

アジア調査会講演会

日豪関係の深化に向けて ブルース・ミラー

中国人の日本語作文コンクール入選作紹介

**AARC** 一般社団法人 **アジア調査会** (毎日新聞社内)

# アジア時報

2015年6月号 通巻507号目次

■時評 平和条約交渉とプーチン大統領招待	袴田 茂樹	2
■特報 戦後の日本外交を、中国を中心に検討する	川島 真	4
■アジア調査会講演会 日豪関係の深化に向けて	ブルース・ミラー	37
■中国人の日本語作文コンクール 入選作紹介		55
■連載 中華歌集抄		51
■連載 「爆買」の謎 「灰色収入」とは？	辻 康吾	60
■連載 沈黙の喘ぎ——私が辿ってきた中国と文学⑪(最終回)	関 連科	65
■第11章 私の理想…自分が良いと思う一冊の小説を書きたいだけ		
■毎日新聞特派員の日		
「北京」「公平」という理不尽	西岡 省二	82
「上海」タクシー受難の町	林 哲平	83
「台北」村上春樹コンテスト	鈴木 玲子	84
「ソウル」韓国人女性の好みのタイプ	大貫 智子	85
「バンコク」シンガポールに学ぶべきか	岩野 淳士	86
「ジャカルタ」インドネシアのコンビニ事情	平野 光芳	87
「ニューデリー」ネパールの明るさ	金子 龍士	88
「テヘラン」取材相手に商談を持ちかける中国人記者	田中 正也	89
「ワシントン」テキサスを放っておけない	及川 正也	90
「ロサンゼルス」安倍首相訪米で抗議参加者の願い	長野 宏美	91
「ロンドン」選挙とお国柄	小倉 孝保	92
「モスクワ」オレンジと黒のリボン	杉尾 直哉	93
■政界ウオッチ 改憲発議、参院に資格があるか	古賀 直哉	94
■中国観察 日米同盟vs中露軍事協力という新冷戦	金子 秀敏	96
■アジア調だけ	事務局	

## 中国人の日本語作文コンクール

日本僑報社など主催  
／アジア調査会後援

# 最優秀賞に東華大学の女子大生

中国に在住する中国人青少年を対象とした「中国人の日本語作文コンクール」(日本僑報社・日中交流研究所主催)は昨年、節目となる10回を迎え、アジア調査会が後援することになりました。テーマは「ACG(アニメ・コミック・ゲーム)と私」と「公共マナーと中国人」の二つ。中国全土で日本語を学ぶ大学生らから過去最多の4133作品の応募があり、最優秀賞(日本大使賞、1作品)、一等賞(5作品)、二等賞(15作品)、三等賞(40作品)が選ばれました。最優秀賞を受賞した東華大学の姚麗瑾さんは、副賞と

して今年2月、日本に1週間招待され、日本記者クラブで記者会見を行い、丁寧な日本語で受け応えました。アジア時報では6月号と7・8月合併号の2回に分け、コンクールの最優秀賞、一等賞の計6作品を掲載します。受賞作品は「御宅」と呼ばれても——中国若者たちの生の声」のタイトルで日本僑報社から出版されています。また、今回はコンクールを運営する日本僑報社の段躍中氏にインタビューし、コンクールを始めた経緯や反響、受賞者のその後の活躍などについて聞きました。

段 躍中 (だん・やくちゅう) 1958年、中国湖南省生まれ。中国の「中国青年報」記者などを経て91年来日。2000年、新潟大学大学院で博士号取得。96年「日本僑報」を創刊し99年に出版社「日本僑報社」を設立。05年から日中作文コンクールを主催、08年9月から日中翻訳学院を主宰。08年小島康賞国際貢献賞、倉石賞受賞。09年外務大臣表彰受賞。北京大学客員研究員、首都経済貿易大学(北京)客員教授、中国新聞社「世界華文伝媒年鑑」編集委員。主な著書に「現代中国人の日本留学」、「日本の中国語メディア研究」、「負笈東瀛 春秋-在日中国人自述」、「留学扶桑」など。

本人、中国人の日本語の先生に指導してもらって、書く力が上がればと思います。私も記者出身(中国青年報)ということ、書くことのほうが好きです。日本語の文章で自分の人生を変えたいと思うので頑張っています。そんなこともあって最優秀賞1人、一等賞5人、二等賞15人、三等賞40人という枠を作りました。何千人の中から選ばれます。選ばれた人はすごく喜び、自信もつく。自分の表現したことを日本人に読まれたら素晴らしい。コンクールは日中の相互理解を促進し深めることはもちろんのことですが、学生たちも書く力をつけます。このコンクールで受賞して実際に新聞社に入ったり、公務員になったり、外交官になった人もいます。日本の新聞社の北京支局でアシス

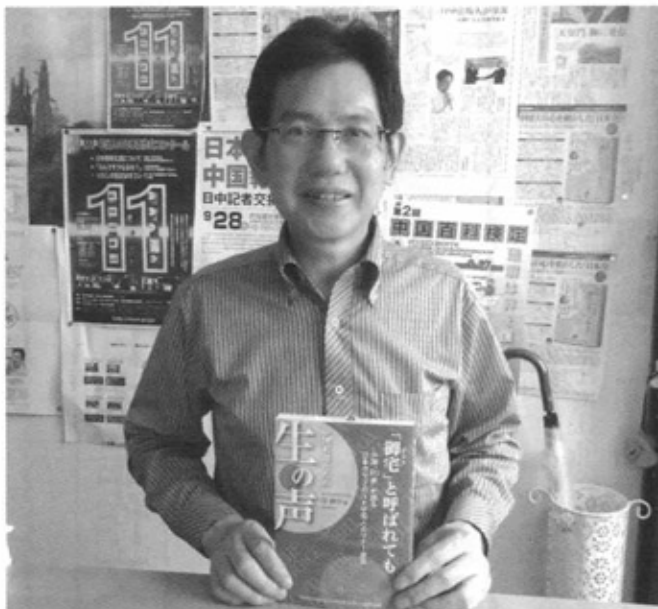
タントとして頑張っている人もいます。すごくうれしいことです。

—— 作文の募集や審査はどうやっているのですか。

段 大変です。コンクールの最初の3回は、手書きしか認めませんでした。代筆などが無いとも限らないし、インターネットから写したものがあってもいいし、それを防ぐために本当に自分が書いたものかどうか確認する。募集に関しては中国全土の2000くらいの大学に送りますが、大森さんのころにすでにネットワークは出来上がっていました。

—— 各大学の日本語学科などで募集するのですか。

段 大学からの推薦もあります。元々あるネットワークを活用して、インターネットの力を活用しメールなども使って募集し、だんだん広がっていきました。それをちゃんと本にするとうれしい。日本の支援もありました。宮本雄二・元駐中国大使がコンクールを高く評価してくれているのですが、二つポイントがあります。一つは、北京とか大きな都市の大学を対象とした日本語の作文、スピーチ、コンテストはたくさんありますが、このコンクールは地方のあまり有名ではない大学にも参加してもらっています。もう一つ評価してくれたのは、はじめに本に出していることです。2008年、第4回コンクールから「日本大使賞」を作ってくれました。宮本さんはノンフィクション



コンクールの受賞作品集「御宅」と呼ばれても」を手にする段躍中さん

なお、第11回のテーマは▽日中青年交流について(戦後70年目に両国の青年交流を考える)▽「なんでそうなるの」(中国の若者は日本のことが理解できない)▽わたしの先生はすごい(第1回日本語教師「総選挙」in中国)——の三つで、5月31日に応募が締め切られました。

### コンクールを日中両国民の共通財産に

—— 「中国人の日本語作文コンクール」は、日中青年の相互理解の架け橋となってきました。コンクールを始めたいきっかけを教えてください。

段躍中 2005年にスタートしました。大森和夫さん(国際交流研究所長、元朝日新聞記者)がそれまでやっていた日本語作文コンクールがさまざまな原因で継続できなくなり、各界から継続して欲しいという要望もあって私が引き継ぐ形でやっています。最初はノウハウもありませんでしたが大森さんに支援していただいていたので何とかスタートできました。その後、毎日新聞や朝日新聞などで取り上げていただき、マスコミや皆さんの応援もあって何とか継続してきました。

—— コンクールは、中国の青年に生身の日本を理解してもらい、日本にも中国を理解する雰囲気深めてもらう絶好の機会だと思えますが、他にどんなことを考えてコンクールを運営していますか。

段 中国人の青年に活躍の場を提供したい、という思いがあります。(中国で日本語を学ぶ学生は)いくら頑張っても誰が評価してくれるのでしょうか。日本人の読者、日本人の審査員が作文を読んで評価してくれる、中国の青年に元氣や力をつけてあげられる。特に中国では日本語を話すより書くことのほうが難しいと言われます。そのため日

作家の石川好さんに電話してくれて、石川さんがスポンサーを紹介してくれたのです。大使賞の表彰式も北京の日本大使館で行いました。大使館の力強い応援で民間のこうしたコンクールも10年続けてこられました。

——指導教官がいますが、どのような指導をしているのですか。

段 今回、指導教官の名前を初めて掲載しました。指導教官は作文の直接の担当者です。自分の名前が載ると勇気付けられます。最初に学生が書き、先生に見せて構成や内容について指導を受ける。教官は書き直させるなどして何回も見ます。作文の基本の考え方は変わりませんが、個別の文法とかは先生が教えています。

——中国で日本語を学んでいる人は多いのですか。

段 多いです。100万人以上います。世界で一番多いのが中国です。大学生だけでなく社会人、高校生、専門学校生もいます。中国国内で日本語を教えている機関は約1800あります。国際交流基金のデータによると、日本語の先生はトータルで1万6752人います。そのうち日本人の先生は2372人です。学ぶ人はもちろん英語が圧倒的に多いのですが、日本語ができれば就職にも有利です。

——日中間がぎくしゃくして、応募が減るのではないかと思います。

段 一昨年はいろいろあって心配しましたが、今年は

テーマの一つが「ゲーム・アニメ」ということもあって応募者数はこれまで一番多かったです。昨年（第10回）は4133人（第9回は2936人）と結構増えました。

——最優秀賞を受賞した姚麗瑾さんは日本記者クラブで日本語を使って記者会見しましたが、堪能な日本語でした。

段 彼女は日本語を勉強し始めてわずか3年です。しかも初めての日本訪問で、難しい内容の記者会見を日本語で行いました。ジャーナリストを目指してカナダに留学しています。

——今年は戦後70年で、歴史認識問題が出ています。しかしこうした市民レベルの交流で、互いに違った見方も出てきます。

段 今、ますますこのコンクールの重要性を感じています。民間のこういった一つ一つのプログラムが両国民の共通財産になっていく。日中の将来は（コンクールに応募した）彼、彼女たちの力によって左右されます。この10年間で2万3000人以上が応募し、佳作を含め1000人以上が受賞しています。作文の質も向上しています。多くの日本人から作文を読んだ感想が寄せられています。ある人は本を3冊も買ってこれ、わざわざ葉書をくれました。こうした隠れた市民交流もあります。これまでの受賞者たちが何十人も日本に來ています。奨学金を受けた人もいれば、

自分で来て博士号取得を目指して大学院に行っている人、日本で就職した人もいます。

（2015年5月15日、東京都豊島区の日本僑報社で。聞き手は本誌・吉田弘之。一部敬称略。文責・編集部）

### 最優秀賞（日本大使賞）



### ACCGと日中関係

東華大学 姚麗瑾

「殺されたから殺して、殺したから殺されて、それで本当に最後は平和になるのか」これは『機動戦士ガンダムSEED』で、幼馴染の主人公二人が立場の違いにより、相手を殺さなければならぬ状況下で抱いた疑問です。

「戦争の意義って何？」これは私がこのアニメを見た後ずっと考え続けている問題です。

当時、十四歳でしかなかった私には、この問題は意味深すぎたのですが、日本のACCGは精緻な場面のある作品だけでなく、ACCGを通じて伝えたい作者の世界観も面白く、見る価値があると私は感じました。例えば『ガンダム

SEED』の中では、遺伝子工学というハイテクをめぐって起きた倫理的問題が発端で戦争が起こるのですが、アニメを見る前はこんな展開になるとは思いませんでした。また、このアニメはフィクションですが、描かれている戦争の場面は大変リアルで、命の脆さを丁寧に描いていました。そして、この戦争の切なさは私の頭に深く印象に残り、今の世界情勢を少し自分の身に近づけて考えてみようと思いはじめました。このアニメがきっかけで、私は日本のACCGに興味を持ち、台詞をより理解するため日本語を勉強し始めました。

「ガンダムSEED」を見てから既に六年。今、私は日本語学部の学生です。日本語を勉強して二年目、授業中先生と学生が何度も日中関係をめぐって、討論をしました。

「日中関係がますます悪化し、最悪の場合、戦争になる……」先生がそう話したそばから、私は『ガンダムSEED』を思い出しました。アニメの中に描かれていた、戦乱のため、自分が自分の親友を殺さなければならぬ場面。私は絶対に経験したくないです。こう考えた私は、あるACCGマニアが集まるウェブサイトにこう記しました。

「人が命を失っても、戦争で訴えたいものは何ですか。利益、正義、それとも、ただ殺された人のための復讐ですか。もし戦争が起これば、必ず誰かが殺されます。殺された人のため、また誰かを殺します。こうして戦争は永遠に

続きます。その戦争の傷はどれほど大きい勝利でも癒せません。私は心から日中間の平和を祈ります。」  
すると二日目、意外なことに、ある日本人が私のコメントに返事をくれたのです。

「私もそう思いますよ。」  
返事は大変短いものでしたが、私にもたらされた感動は大きかったです。ACGがきっかけで日本人と交流できることには驚きましたが、より収穫だったのは日中の平和を祈っているのが私だけでなく、日本人の中にも中国に好意を寄せている人がいることが分かったことです。その後、ACGがきっかけで何度も日本人と交流する機会を得ました。互いに好きなアニメについて話し合っていると、様々な共通点が見つかりました。国籍が違っても、彼らは私の周囲の友達と全く同じです。交流した後、中国人への印象が変わったと私に言ってくれた日本人もいます。日本語学部の一学生にすぎない私ですが、自分の力が少しでも役立つ気がして、嬉しかったです。

今の日中間関係悪化の原因は、政治の原因以外に、双方の理解不足も原因の一つだと考えます。中日戦争の暗い影の下で、日本人全員が悪いと思っている中国人は少なくないでしょう。しかし、これは事実ではありません。現在、中国人に人気がある日本のACGにはこのような誤解を解く力が秘められています。好きなACGについて話し合いな

な友人もいる。  
猫先生やトトロだ。だから私の生活は心豊かで孤独ではない。

「またそんな子供向けのものを見ているの？ もうあなたは大学生だよ。いつまでも子供じゃないんだから。」  
「そんなことないよ。だってこれ、中国の動画とは違うの。大人でも楽しめるのよ。」

今でも私は母とよく、そんな口喧嘩をする。私のことはどうでもいいけれど母がアニメの悪口を言うと、私は絶対にアニメの肩を持つ。しかし大学生になって、「夏目友人帳」に出会うまで、私はアニメって一体何なのかも知らなかった。このアニメを初めて見たとき、高校時代のことがあった。ありと目に浮かんだ。もし、高校に入ってからこのアニメに出会ってれば、私はもっと心静かで穏やかに私の猫先生が現れるのを待ち続けることができたであろう。

ところがご存知のように、中国の大学入学試験は厳しいこと極まりない。特に私が住んでいた江蘇省はその中心地と言われ、私は灰色の高校生活を過ごすことになった。遠い都会の学校へ通うため、アパートを借り、テレビや携帯など一切無縁で、朝から夜寝るまでひたすら勉強ばかりの日だった。両親が離婚し、友人とも離れ、周りは知らない人ばかりで怖くてさびしかった。真っ暗な夜の世界に、一人でもがいて道を探しながら歩く毎日。そう、あの頃の

から、相手国の姿を確認し合う、これは新たな文化交流の形になるかもしれません。

そして、日本語を学ぶ学生は可能な限り、日中の交流を深めていくべきだと思います。例えば、定期的に日本のACGマニア大会を開催するなど、同じ興味を持つ日本人と中国人を誘い、私達が通訳として、彼らの交流の手助けをすれば、きっとみないい友達になれるはずですよ。小さなことから努力すれば、きっといつか日中間関係がよくなると思っています。

「ガンダムSEED」のラストのように、永遠の平和を祈ります。

(指導教官：岩佐和美)

一等賞



日本のアニメに恋をして

重慶師範大学 張珩

私にはたくさんさんの恋人がいる。彼らは皆、とてもカッコよくて勇敢な男性だ。私にはいい仲間が大勢いる。彼女らは皆、かわいくてやさしい女性だ。私にはかきこくて特別

私は夏目貴志そのものだった。誰にも理解されず、友人を作りたくても作れず、たった一人でもがき苦しむ、自殺することすら考えていた私。

しかし、闇夜もいつか必ず夜明けを迎える。猫先生が夏目のそばにいてくれたように、やがて私の前に一筋の光が現れた。そう、日本のアニメとの出会いが私を変えて、希望と勇気を与えてくれたのだ。私は何とか大学に合格し、夏目と出会い、間もなく恋に落ちてしまった。運命の恋だ。と思うから、止めたくても止められない。アニメの世界で、初めて夢中になったのが夏目貴志君だった。彼との出会いはどう表現すればいいのだろう。そう、「出会うのが遅すぎた！ 残念だ！」という気持ちだ。「もっともっと早く出会えれば良かったのになあ。」という。私は貴志君のように妖怪を見ることはできないけれど、彼の気持ちごとにもよく理解できる。人々は夏目君のように、自分だけの心の世界があり、そこでは猫先生が見守っていてくれる。私はもう一人ではなくなりました。

日本のアニメは、その作者が自分の価値観と精神世界に愛を溶け込ませて生み出したものだ。主人公たちは勇敢で、やさしく、チャームキングだ。それが私を惹きつけている。いいえ、私だけではなく、数え切れないほど多くの中国の若者を惹きつけている。優れた日本のアニメと出会ってから、私はそこに描かれた主人公のように、勇敢で優しい人

間になりたいと思いはじめた。心に愛があふれ、周囲と調和して、どんな困難に遭遇しても、あきらめずに雨上がりの虹を待っているような人にあこがれる。日本のアニメが好きな人たちは皆、さびしがり屋で純粋な人だと思う。アニメの世界のなかで、自分の心の世界とのつながりを見つけ、その中から力を求めて頑張っている人たちが。その点、中国のアニメは子供向けのもが多くて物足りない。日本のアニメはそれとは対照的にたくさん種類がある。もちろん、「所詮楽しみは個人の趣味」と言った人がいるように、自分の世界は自分にはしか理解できないところもあるだろう。しかし、たとえ「二次元」とか「御宅」と呼ばれても、みんなは私にとって大切な仲間なのだ。だって、私は日本のアニメに恋をしてしまったのだから。

(指導教官・松木正)

一等賞



心遣いを回収したい

南京農業大学 汪婷

ある日、日本人の先生とレストランに行きました。店内

お客様を怒鳴りつけてもいいのでしょいか。」と尋ねる先生に「私達は、もう慣れました。これは普通のことです。」と答えた時、私の声は、とても小さくなっていました。やっと注文の品がとどいた時、もう食事は終わっていました。その後もう一度、その店で先生に御馳走になりましたが、店員の態度は、全く変わりませんでした。

マナーについて、先生との温度差を何回も感じ、自分の態度がどこかおかしいと思うようになりました。なぜなら、いつも心の奥底では先生の言葉が正しいと思うからです。「子供だから」「忙しいから」「あまり気にしないで」「私は、先生を宥めているつもりでした。ところが、実は自分を慰めていたのです。」

問題から目を逸らせば、その場は平安に過ごすことが出来ます。大声で話す人がいれば静かな場所に移動し、歩き煙草に遭遇すれば煙が流れてこない方向を探します。注意すればもっと酷い目にあうかもしれません。目の前の快適さを手に入れるために見ぬふりをしてきました。このようなことを繰り返して、次第に自分の本当の気持ちに鈍感になっていったのです。自分は迷惑行為をしていなくても、それを容認することで社会に氾濫させる片棒を担いでいたのです。外国人の先生の感覚に触れ、自分の歪いびつさに気が付きました。言い訳を並べて中国人としてのプライドを保つことなど無意味です。

で、子供達が追いかけてこやゲームをしていました。ずっと大声で騒ぎ続けるので、先生の声を聞き取ることもできません。親たちは楽しそうに食事を続けています。先生は、その場で親子の無作法を話題にしました。私は咄嗟に「あの子たちは、まだ子供ですから。」と言いました。先生は「親は大人ですね。」と静かにおっしゃいました。「子供は、のびのびしている方がいいです。食事は楽しく食べる方がいいです。」「ここは、彼らの自宅ではありませんよね。」「子供に厳しくする必要はないです。大人になれば自然に分りません。」「三つ子の魂百まで。」先生に「これは大きな問題ではない。私の反応は大げさです。」と思ってもらいたいのには全く効果がありません。

またある時、先生に有名な料理店に連れて行っていただきました。雰囲気もある高級店です。人気があるお店ですから、店内は人でいっぱいです。ご飯と白湯を追加で注文しました。十分たっても持ってきてきません。ウェイトレスに繰り返して頼んでも、まるで聞こえないように別のテーブルを拭きに行きます。他のウェイトレスも無視します。何とか呼び止めると、睨みつけて大声で煩わしそうに対応します。先生は「何故、お客が怒られなければならないの。」とおっしゃいました。私もそう思います。そう思いながらも「彼女たちは、朝から何度も同じオーダーを聞いて、疲れているかもしれません。」と説明しました。「忙しければ、

このままでは、私の子供や孫も他人への配慮がない社会を当然のように受け入れ、この悪循環を担い続けてしまいます。まず、私が変わらなければなりません。私達がもっと幸福になる為に声を上げるべきです。

私は大学でアルバイトをしています。仕事は教室の清掃です。毎日、授業が終わると掃除に行きます。飲みかけのペットボトルや紙コップが放置されている時は、本当に大変です。こぼさないように注意して回収し、洗面所で中身を一つ一つ捨てなければなりません。いつも陰でブツブツと文句を言いながら作業をしていました。勿論、教室をきれいにするのは私の仕事です。ゴミを回収するのは業務の一部です。ですが、当然のように机の上におかれているのを見るのは辛いのです。「掃除をする人間がいるのだからゴミを片付ける必要なんてない。」という考えは改めてもらいたいです。これからは、学生さんの心遣いに期待します。まずは、勇気をもって、この期待をクラスの皆さんに伝えたいと思います。

(指導教官・石原美和)